

No. 70

2010年10月発行

新潟県会報

マイスコープ

上越市にムラサキサギ

上越市 古川 弘



2010年5月3日から15日まで上越市浮島滞在

上越地区には過去に3回程の飛来記録があります。今回飛来した、ムラサキサギは13日間ほど滞在しましたので生活の様子を色々を見せてもらえました。警戒心の強い鳥ですが車の中からですと意外と思える程、近くにも来てくれ綺麗な姿を楽しめました。採餌で面白かった事は、モグラ、ネズミ等を捕えると殆どの場合、水に沈め濡らしてから食べていました。小さいネズミを濡らさずに食べたこともありましたが、私が観察していた間では

ネズミ、モグラの比率が高かったと思います。水辺の葦に隠れるのが上手で行動を追っていますから存在は分かりますが此の場所を初めて訪れた時、ムラサキサギが葦の中に紛れていたなら発見出来ないことも有るだろうと忍者ぶりには脱帽しました。擬態の行動はとても面白いもので、風になびく葦と動きを同期させ、そよ風で葦がゆっくり動けばゆっくり、風が強まれば合わせて早く長い首を振っていました。本当に見ていて飽きないムラサキサギでした。

支部長退任のあいさつ

大 島 基



昭和55年4月から平成22年3月までの長きに渡り新潟県支部支部長を努めてまいりましたが、このたび平成21年度役員任期満了に伴い、退任させていただくこととなりました。30年の間、支部会員の皆様には多大なるご支援とご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

昭和53年4月に日本野鳥の会新潟県支部が設立され、初代支部長として加藤忠一さん（故人）が就任され、県支部設立と活動方針の道づけをしてくださいました。しかし2年後には支部長退任を表明され、役員で相談した結果私が支部長に推挙されました。当時まだ37歳と若輩者であり、野鳥は大好きだけれどもまだまだ勉強中という時に大役を仰せつかり、戸惑いながらも微力ながら会の発展と野鳥たちのためになればと要職をお引き受けしたことを昨日のこのように憶えています。当時は今のように野鳥と生息環境の大切さ、自然の保護という考え方が浸透しておらず、そのためにも探鳥会などで実績を積み重ね、会の活動を通じて広く一般の方々に理解してもらうことが最善であると考え、会員皆様の意見をいただきながら県支部の探鳥会などの年間計画を立て、上越、中越、下越の各探鳥地で定例観察会を行うこととし、会員の方ができるだけ参加しやすい探鳥会の開催を心がけて参りました。また昭和62年にはこれまでの調査、研究、観察の成果を発表し、野鳥についてより広く知ってもらうために研究発表会を開催し、現在まで継続して開催されていることは嬉しい限りあり、ひとえに会員皆様のおか

げと思っています。30年の間には様々は出来事がありましたが、中でも残雪の残る新緑の山々での総会・探鳥会は最も楽しい思い出です。会の方針決定を行う大切な会議のあとで、会員皆様と酌みかわすお酒と地元の料理、そして野鳥のさえずりを聞きながらの探鳥会は何ものにも代え難い楽しいひとときでした。ある年の銀山平総会では、露天風呂の中から上空を飛翔するイヌワシを観察することができ、至福のひとときを過ごすことができました。また、柳生博会長が来県されたときに「全国で最も在職期間が長い支部長の大島さん、本当にありがとう。」と言われ、嬉しくて遅くまで酒を酌みかわしたことが良い思い出となっています。

今年6月の総会で県支部は日本野鳥の会新潟県となり、新たな門出を迎えることとなりました。新しい会長には前事務局長として支部の運営に尽力されてきた石部久さんが就任され、会のけん引を安心して引き継ぐことができることを心から喜んでおります。

地球温暖化や環境の変化が毎日のように報道され、野鳥を通じて身近な自然の大切さを伝えていく我々の活動はこれまで以上に大切な使命を担っていると思います。これからは会員の一人として会が益々発展されますよう微力ながら応援していきたいと思います。長い間本当にありがとうございました。



笹ヶ峰探鳥会にて

日本野鳥の会新潟県の今日とこれから 会長就任のあいさつ

石 部 久



日本が世界にむけて、盛んに国威を主張していた昭和初期、日本は自然環境や多様な生物の存在、生息状況の如何には関心がうすく、多くの目は欧米諸国、アジア隣国を視野に国力拡大を図っていました。そのような国情の中で、「自然を大切にしよう、自然の中で懸命に生きる鳥たちを見守っていこう、野の鳥は野に」と、自然を本来のままに保護する考えを提唱し、仲間をつのり、昭和9年（1934年）3月11日、中西悟堂は日本野鳥の会を創設しました。それ以来、日本野鳥の会は地域に出かけ探鳥会を行い、野鳥の生息地を守る運動等を実践してきました。近年は全国組織の深化拡充を図り、日本の自然はもとより、アジアなど地球規模での自然環境問題に対し、時代を越えて掲げた理念を主張し続け、自然を守る活動を行ってきました。日本野鳥の会新潟県支部は、昭和53年（1978年）に発足し、上越、中越、下越各地の地域色豊かな自然、地理的環境の特性を生かして、観察会や会合、研究会等を行ってきました。新潟県の自然、環境の成りたちは、日本の中でも独特の豊かさと鮮やかな四季をもつ美しい雪国です。

近年の新潟県における画期的な出来事は何といても日本の空をトキが飛んだことでしょう。念願だったトキが飛ぶ光景を、現実に分人たちの目で、野外で見ることができたのです。これまでのトキ保護プロジェクト関係の人々の並々ならぬ努力と、長きにわたる野生復帰へのたゆまぬ挑戦によってトキは自身の翼で飛ぶことができたので

す。放鳥されたトキは、佐渡島を生息地として終日生活し、ある個体は日本海をわたり新潟平野を飛行し、ある個体は北日本を横断し宮城県に、雪の山野を飛行して長野県に、富山県にと、生物がもつ生命の可能性、種の限界の如何を、大自然を実験室に今も生き生きとした生活を展開しています。

新潟県は地理、地形、気候区分などから成る諸環境は豊かな構造、要素をもっており、生育する植物も雪国型特有の特色を示し、そこに生息する動物の生活も多様です。これらの在り方、自然、野鳥の生息する環境の保全、諸問題はこれからも課題として続いていきます。多くの会員の皆さんとともに野外観察の機会をより多くもち、資料を集積したいと思います。日本野鳥の会新潟県支部は、本年度から名称も「日本野鳥の会新潟県」となりました。日本野鳥の会が80年ちかく掲げてきた理念は、日本野鳥の会新潟県として今後も力強く主張していくことが大切です。新潟県のこれからの時代や社会の動向と、自然や動植物、鳥とのよりよい在り方をもとめ、会員が理念を共有し活動していくことが大切と考えています。大島基前支部長は、発足当初から新潟県支部の運営を担い30年の長きにわたり日本野鳥の会新潟県支部長を務めてこられました。野鳥の会や会の仲間にかける熱い情熱と自然や鳥に対する温かい想いを大切に継承し、日本野鳥の会新潟県の会員のみならずとともに、新潟県の豊かな自然を見守っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



銀山平探鳥会にて

我が北欧探鳥記

小千谷市 中山正則

航空機の窓から見下ろすと、北極海はすべて氷結し、純白の世界であった。更に飛行。平らな陸地は雪で被われ真っ白だ。再び北極海。大氷塊が切り離れ島状となっている。緯度が下ったのか、海の氷はモザイク状だ。更に緯度を下る。陸地は、雪に被われたツンドラ地帯。航空機は、南下する。“白海”は無氷だ。ロシアのカレリア地方・・・湖とタイガ、一部雪に被れている。ラップランド、小さな集落が見える。そして、フィンランド、一面の湖とタイガの向こうに耕作地が広がっている。ボスニア湾上の大きな島。いままでよりは、少し暖地的な感じがする。おお、素晴らしきバルト海だ。

スウェーデン・・・針葉樹林帯・湖沼・畑・リゾート地が混在している。今は、ストックホルムの少し北辺りだろうか。こころの躍動を乗せ、我がスカンジナビア航空機は、間もなくコペンハーゲン国際空港ランディングの一刹那を迎えようとしている。

昨年5月下旬～6月初旬、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド北欧4ヶ国を歴訪しました。支部報には、“我が北欧探鳥記”と銘打ち、断片となりますが、忘れかけた記憶を辿りながらご報告します。

デンマーク

朝6時、コペンハーゲン市内を散策。ホテルの近くにある王立オルステッド公園に行く。ここは、古い昔の城堀跡とその周囲を公園化したものだ。入園して間もなく、池の端にマガモの一番いが私を出迎える。クロウタドリが陽気に囀っている。すぐ目の前に飛来し、私の眼と鼻の前に、嘴の黄色が美しい・・・脳裏に残りそうだ。イエスズメが沢山群れている。カササギが4羽、地面で餌を突ついている。カササギが、いっぱいいる。木々の間を数羽飛び交っている。ユリカモメとセグロカモメが池の上を飛び行く。ヒメモリバト・モリバト・ニシコクマルガラス・カササギ・イエスズメたちが一緒に芝斜面状の草地で餌を啄ばんでいる。更に池の端の路を行くと、この公園に生

息する野鳥の案内版に遭遇。しばし立ち留まり、ここでどんな鳥が観察されるのか興味を持って眼で追い、自分の鳥知識とする。けたたましい鳥の音がする。水面上を黒い水鳥が同じ黒い水鳥を追う。オオバンの縄張り争いだ。越冬期のオオバンの生態しか知らない私は、本種の繁殖期の行動を目の当たりにし、感動した。アオカワラヒワの声を聞きながら、公園を後にした。

ノルウェー

・ベルゲン

朝5時30分、ベルゲン市内の朝の探訪に出かける。フェスト公園広場に向かう。大きな人口池が現れる。池にカモメたちが舞い飛ぶ。アカシアアジサシが小雨の中を1羽飛び舞っている。

私の足は、ヴォーゲン湾へと向かう。湾岸に辿り着く。昨日の夕刻眼にした魚市場の屋台はきれいに片づけられている。あの売り買い人達のにぎわう声もなく、静けさが支配していた。カモメと一緒にハシボソガラス（亜種 Hooded Crow）がたくさん群れ飛んでいる。黒とグレイのツートンカラーが印象的だ。岸壁に寄り添いながら停泊している人々の感動を呼び起こす大きな帆船の前で歩を止め、イエスズメたちの戯れにしばしお付き合いをする。

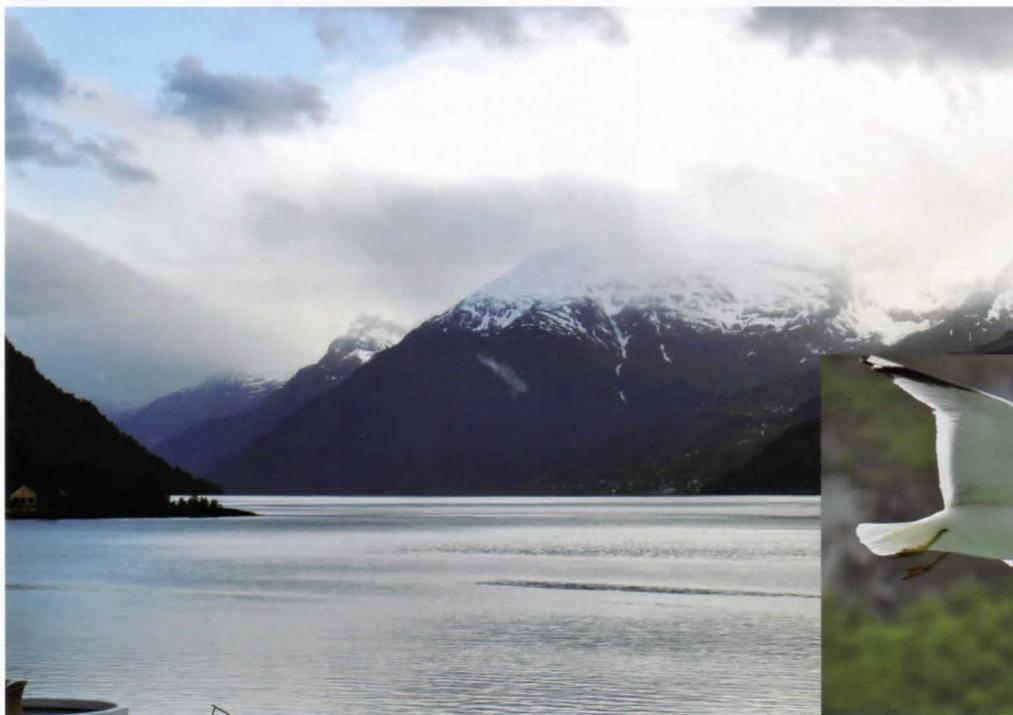
・ネーロイフィヨルド

ヴォスでバスからベルゲン鉄道に乗り換え乗車。ミュールダールに到着。ここは、標高866mの地にある。気温が低く雪が降っていた。旅行目的の一つフロム鉄道に乗り、海拔0mの岸辺の町フロムに向かう。フロム到着後、以前使用していた鉄道列車を改造したレストランでの昼食となる。生ビールを飲みながら、コックが腕に腕を振るったサーモンステーキを御馳走となる。いよいよ憧れのフィヨルドクルーズだ。我が船は、アウルランフィヨルドを通り過ぎ、憧れの世界文化遺産ネーロイフィヨルドへ。クルーズ船甲板脇の少し上をカモメたちが一緒にランデヴー飛行。夏羽の純白部分の羽彩が美しく、感動的だ。

・ウレンスヴァング



II フィヨルドクルーズ光景 — ネーロイフィヨルド (ノルウェー)



III ホテルからのフィヨルド遠景 — ハダングルフィヨルド (ノルウェー)



I フィヨルドを飛び交うカモメ — ネーロイフィヨルド (ノルウェー)

投宿したロフトフースのウレンスヴァングホテルは、女性美に象徴されるハダングルフィヨルド内にある。このホテルの敷地内には作曲家グリークが作曲活動をした小屋も残されている。ホテルには、ノルウェー国王御一家専用の居室があり、ご一家はしばしば御利用なされるという。因みに皆様にご報告を。夕食時このホテルで赤ワインを飲みながらトナカイのステーキをご馳走になりました。

朝6時、ロフトフースのハダングルフィヨルドを探鳥と探訪。小さな針葉樹に小鳥の囀りが！・・・シジュウカラだ。日本のシジュウカラの囀りの音とは少しが違う。胸部・腹部の色彩は、はっきりとした黄色で彩られていた。目の前の湖畔の水辺を小さな鳥が飛び行く。おっとと、ここはフィヨルド、湖畔ではなく海岸だ。上面の風切羽に帯状の白色が目立つ・・・ハジロコチドリだ。

アオカワラヒワが鳴いている。日本のカワラヒワの鳴く音とよく似ているが、その色彩は胸・腹部の黄緑色が濃く鮮やかだ。斜面状となっている林檎畑の上手の林でカッコウが鳴いている。嗚呼、のどかなり。

スウェーデン

ストックホルムから船でヘルシンキへ。ストックホルム港からのシリアライン航海、バルト海クルーズだ。港の岸壁に安らふニシセグロカモメ・セグロカモメたち、この旅行で初めて見たツバメが1羽飛んでいる。船は港を離れた。海なのに波はなく、静かな湖みたいだ。夏至を前にした北欧に夜はなかなか訪れない。午後8時を過ぎたというのに、まだ昼間のごときである。

船は、たくさんの島々の間を通り抜けて行く。奇妙なランズケープの小さな島々が見える。小島の針葉樹の木々がすべて薄赤白色っぽく丸裸で一葉も纏っていない。そして、これらの木々に止まっている黒っぽい3,000羽を超える鳥たち。カワウのコロニーだ。船は戸惑うことなく更に進む。遠くの海上に、カモたちが安らいでいる・・・ホンケワタガモであろうか。船先を、ウミアイサが3羽飛び抜けて行く。見飽きることのない光景が連続するひとときとひととき。

フィンランド

早朝、ヘルシンキ市内にあるトーロ湾沿いを逍遥する。湾と言っても、現在は海とは隔絶され内



IV 餌を啄むイエスズメ - オタワ市内(ノルウェー)

陸化しているので、実際は湖と言った方がよいのかもしれない。廻りは、公園として整備されている。手すりの上にアカアシアジサシが1羽。水面を睨んでいる。朝食の魚を狙っているのだ。餌を捕獲したり、逃したりしてまた同じ手すりに戻り餌を狙う、この繰り返しをしているのだ。それではと写真を撮らせていただいた。芝生状の草の上を薄褐色の動く物が行く・・・何だろう。ノウサギだ。日本のノウサギより小型の感じがする。

国立オペラ座の上空をけたたましく鳴きながら黒っぽい鳥が3羽飛んでいる。赤く長い嘴をしている。オイスターキャッチャー、ミヤコドリだ。もう1羽飛んできて、このグループへの仲間入り。このフィンランドでは、そう珍しい鳥ではなさそうだ。少し遠くの水面上に白い大きな鳥2羽・・・こちらの方へ向かってくる。2羽そろってお辞儀をしている。コブハクチョウの番いだ。野生のものと思われる。スウェーデンやフィンランドでは、数は多くないが、普通に観察される。芝生状の草地に何羽かのムクドリ大の鳥が、鳴いたり、歩き廻ったり、餌食している。ノハラツグミだ。少し鳴く音が異なる鳥がいる。何だろう。脇腹が赤褐色だ。ノハラツグミと近縁種のワキアカツグミである。少し離れている所にもう1羽いる。このツグミ科の2種は、フィンランドではコモン・スピーシスのようなものである。

次の一光景が、北欧探鳥の終わりに近付きつつある私を喜ばせてくれた。広葉樹の枝に青っぽい小型の野鳥が1羽、『ブルーティット・・・』アオガラだ。私は、求めていた存在と場面を目の当たりにし、その名前を呼ぶ声を詰まらせた。しばし歓喜の世界に埋没した。



V カワウのコロニー — バルト海 (スウェーデン)



VI 餌を狙うアカアシアジサシ — トーロ湾 (フィンランド)



VII コブハクチョウ番い — トーロ湾 (フィンランド)



VIII 草地上のノハラツグミ — トーロ湾 (フィンランド)

北欧4ヶ国で観察した鳥類 (2009年)

No.	種名		デンマーク				ノルウェー						スウェーデン			フィンランド		
	和名	英名	チボリー公園	王立公園オルステッド	クリスチャンボー	アマリエンボー城周辺	ベルゲン	ボッス	フロム～ネーロイフィヨルド	ウレンスヴァング	フログネル公園	SAS材知内公園	ストックホルム高原通	ストックホルム港	シリヤン海上航	ヘルシンキ市場	ヘルシンキ市街	トーロ岸
1	カムリカイヅブリ	Great Crested Grebe																1
2	カワウ	Cormorant												3,000				
3	コブ ハクチョウ	Mute Swan											3	2		1		2
4	マガモ	Mallard		2						1								5
5	ホンケワカモ	Eider												17				
6	ウミアイサ	Red-Breasted Merganser												3				
7	オオバン	Coot		3		1												
8	ミヤコドリ	Oystercatcher																4
9	ハジロコドリ	Ringed plover							1									
10	イソシギ	Common Sandpiper							1									
11	ユリカモメ	Black-Headed Gull	22	7						20	1					7	5	2
12	セグロカモメ	Herring Gull		2		3				5				3	3	10		12
13	ニシセグロカモメ	Lesser Black-back										2	7	7				
14	カモメ	Common Gull					15	50	71	35		20	10			5		
15	アカアシアシサシ	Common Tern					1											1
16	ヒメモリバト	Stock dove	4	11														
17	モリバト	Woodpigeon	2	7	4		12				1							
18	カクコウ	Cuckoo							1									
19	ツバメ	Swallow											1					
20	ハクセキレイ	White Wagtail			1				3		2							1
21	キイロウタムシクイ	Icterine Warbler																3
22	ニワムシクイ	Garden Warbler									1						1	4
23	キタヤナギムシクイ	Willow Warbler															1	
24	クロウタドリ	Blackbird	1	4			3		1	3	2					3		1
25	ノハラツグミ	Fieldfare							2							8		7
26	ワキアカツグミ	Redwing							1									2
27	シジュウカラ	Great Tit						3	4							1		3
28	アオガラ	Blue Tit																1
29	アオカワラヒワ	Greenfinch		1			1		2		3					2		3
30	スズメ	Tree Sparrow						15	4									
31	イエスズメ	House Sparrow	1	22	2	4	10			20	5				5	7		5
32	カササギ	Magpie		7			8				1							1
33	ハシボソガラス亜種	Hooded Crow					12											8
34	ニシコクマルガラス	Jackdaw		1		2												
	計		30	67	7	10	62	3	65	91	84	16	25	18	3,032	15	44	65

中部ブロック会議参加報告

事務局

本年度の中部ブロック会議は、6月12日、13日に長野県白馬村のホテル白馬で開催されました。参加者は10県17支部48名で、本会からは石部会長、岡田副会長、本間（事務局）の3名が出席し、財団本部からは、安西理事、葉山自然保護室長、村山会員室員の3名が出席しました。長野支部長、白馬村村長の挨拶があり、安西理事からは今年は生物多様性年 COP10 が愛知で行われること、公益財団法人化への移行が進んでいること、会員が減少傾向にあることなどの話がありました。その後財団への質疑応答、高木理事による理事会の報告があり、続いて信州大学大学院教授のマイケル・ノートン先生より「イギリスの Birding」と題して講演がありました。二日目は北アルプス連峰を背後にした雄大な白馬の高原で探鳥会が行われ、長野支部の方々と安財理事による丁寧な解説を聞きながら、チゴモズをはじめとする高原の野鳥たちに出会うことができました。朝食後は姫川源流部親海湿原に移動して探鳥を

行ったのち、大町山岳博物館に向かいました。一昨年新潟で開催され、県支部も運営に参加したライチョウ会議の事務局長で同博物館勤務の清水さんに再会し、同氏から館内とアルプスの自然について丁寧にご説明いただいたのち解散となりました。中部地域各支部と親交を深めることができ、有意義な二日間となりました。

(文責 本間)



フォトアルバム

近年デジカメ、デジスコの普及により、鳥の生態やアップの写真が気軽に写せるように成りました。珍鳥、力作、鳥以外の写真もOKです。

気軽に投稿して下さい。

作品募集中!!

編集部



上越市正善寺ダムの奥 2010. 5. 22 古川 弘 撮影



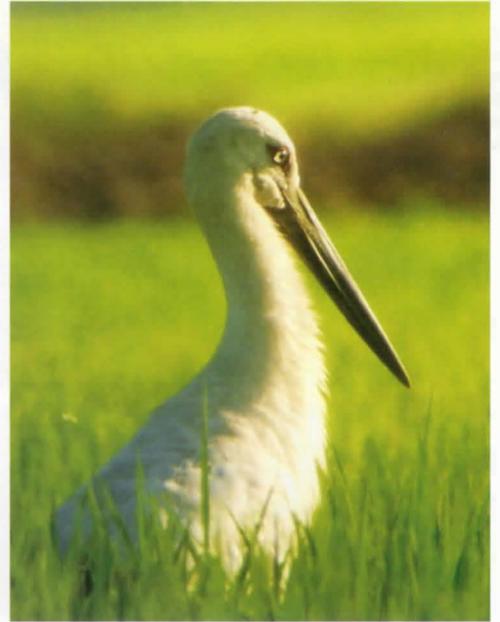
上越市正善寺ダムの奥
2010.5.22 古川 弘 撮影



上越市頸城水田
2010.4.21 古川 弘 撮影



3日ほど滞在しましたが詳しい渡去日は不明です。
上越市頸城水田 2010.4.14 大原淳一 発見 古川 弘 撮影



2010.7.20 小林成光 撮影



5月3日から15日まで滞在し採餌の様子や擬態の様子。
上越市浮島 2010.5.3,5 古川 弘 撮影



2010.7.20 小林成光 撮影



柏崎市田塚に飛来 2010.7.19 川合則雄 発見 2010.7.20 小林成光 撮影

ホームページの開設

研究部

今年度からブログ形式のホームページを始めました。作製は研究部が担当することになりました。内容は自由閲覧、会員専用、日本野鳥の会新潟県入会方法のページからなっています。最初の Top ページのサイトに入るには、Yahoo のファイル - 開く - から、

<http://wbsj-niigata.blog.ocn.ne.jp/main/> と入力して OK をおしてください (図 1)。



図 1. ホームページの Top ページ

自由閲覧から進んでいくと探鳥地案内、繁殖分布 Map (環境省による分布図)、行事予定 および野鳥観察の方法になっています。探鳥地案内、繁殖分布はより進んで具体的な地名の画像や鳥名を選んでください。詳しい画像が出てきます。

会員専用は珍鳥記録と観察記録のページです。会員だけが閲覧できるサイトでユーザー名とパスワードが必要です。ユーザー名は「tori」、パスワードは「niigata」です。これらのページは自分のコメント(珍鳥・観察記録)を書くことができます。コメントを書くには「名前」と「コメント」が必

要ですが、名前は本名である必要はないので適当な名前をつけてください。コメントは鳥の観察記録だけを書いてください。皆さんでこのサイトを充実させてください。ただし、このページは研究部が管理しているので、会の運営や保護活動に関すること等については書かないでください。不適切な内容は削除させていただきます。

またさしつかえないなら、メールアドレスをお書きください。ただしこのホームページには掲載されません。メールアドレスは研究部だけに届きます。URL : は記入する必要はありません。

記載方法は、例えば観察記録では、

「名前」 yukiguni

「コメント」 H18年6月4日、銀山平で調査。1km。

ノスリ1, イシギ 2, セグロセキレイ2, キセキレイ S1, ジュウカウ S2V1, キタキ S3, ノゾコ S2, ハブトガラス2。

ブナの新緑が芽生える。積雪多い。

珍鳥記録では、

「名前」 yukiguni

「コメント」 H19年1月10日、佐潟にて、アオハクガンを1羽確認。

コハチヨウの群れに混じる。

など、以上のようにお書きください。書いたら投稿ボタンを押してください。その際コメントの検証を要求されるので表示通り記入してください。日本野鳥の会新潟県入会方法は、直接本部のホームページにいけますのでそこの内容をお読みください。

今年度はテスト開設です。今後一層内容を充実させていきたいと思っています。なお、内容について良いアイデアをお持ちの方は以下のメールアドレスにご意見をお寄せください。

wbsj.niigata@wish.ocn.ne.jp

発行 2010年10月31日 No.70

発行人 石部 久 編集者 小林成光、浦部良雄、千葉 晃

日本野鳥の会新潟県

事務局 〒950-0941 新潟市中央区女池3丁目13番25号

TEL 025-285-2405 本間由紀子方 〈振替口座〉 00610-1-6002